

9月
定例会



VOI.22

いかた 議会だより

平成22年(2010年)11月19日

発行 伊方町議会

編集 議会だより編集委員会

電話 ㊟-0211(内線410)
㊟-2662(直通)



大浜秋祭り

今回の主な内容

9月定例会の動き	2P
第21年度決算・第20回臨時会	3P
一般質問・議会日誌	4P~6P
議員研修レポート・委員会報告	7P~8P



9月定例会の動き

第22回定例会は、9月22日～28日開催

報告3件、補正予算9件

決算14件、契約1件

(すべて原案可決しました)

主な決定事項

報告

平成21年度伊方町の財政の健全化判断比率及び資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項及び第22条第1項の規定により報告

平成21年度伊方町の教育に関する事務の点検・評価報告書の提出について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定により点検・評価報告書を提出

寄付採納について

松山市針田町(三机出身)

藤川 敬宇氏より

社会福祉の増進に役立てて欲しいと30万円の寄附があったもの

補正予算

平成22年度伊方町一般会計補正予算(第3号)

歳入歳出それぞれ

6億2,441万6千円を追加し予算の総額を94億6,246万9千円とする

主な内容

(単位:千円)

事業内容	予算額
三崎総合支所(議場)改修	9,145
特産品開発調査委託	3,675
中山間直払交付金事業	90,627
木製魚礁設置事業(三崎地域)	20,000
観光物産センター防水工事	9,403
道路新設・改良事業	42,027
伊方港整備事業	24,553
全国消防操法大会出場経費	2,839
伊方武道館改修工事	9,975
人事異動等に伴う人件費の整理	△39,403

平成22年度伊方町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

事業勘定

歳入歳出それぞれ

1億873万3千円を追加し予算の総額を18億7,394万5千円とする

直営診療施設勘定

歳入歳出それぞれ

1,388万5千円を追加し予算総額を6億9,561万5千円とする

平成22年度伊方町学校給食特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ

10万8千円を追加し

予算の総額を4,445万円とする

平成22年度伊方町港湾整備事業特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ

150万9千円を追加し

予算の総額を3,469万9千円とする

平成22年度伊方町後期高齢者医療保険特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ

162万5千円を減額し

予算の総額を1億6,018万8千円とする

平成22年度伊方町介護保険特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出それぞれ

1,707万円を追加し

予算の総額を10億9,269万4千円とする

平成22年度伊方町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ

1,781万6千円を追加し

予算の総額を6億8,450万8千円とする

平成22年度伊方町風力発電事業特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ

44万3千円を追加し

予算の総額を4,315万3千円とする

平成22年度伊方町水道事業会計補正予算(第1号)

収益的支出を

192万1千円減額し

補正後の総額を2億9,570万円とする

契約

足成漁港漁村再生交付金事業請負契約の変更締結について

変更前

8,022万円

変更後

7,813万7千円

(事業量変更による減額)

藤川建設有限会社

◆◆◆◆ 平成 21 年度決算 ◆◆◆◆

監査委員による平成21年度の一般会計及び特別会計決算審査が、8月2日～8月10日にかけて実施され、更に、第22回定例会会期中の9月24日に全員協議会で審議し、9月28日の本会議において認定されました。

(単位：円)

会 計 別	予 算 現 額 調 定 額	決 算 額		歳 入 歳 出 差 引 額
		歳 入	歳 出	
一 般 会 計	14,203,556,480 12,884,600,766	12,762,498,458	12,446,518,354	315,980,104
学 校 給 食 特 別 会 計	42,737,000 43,279,028	42,238,155	42,133,094	105,061
住 宅 新 築 資 金 等 貸 付 事 業 特 別 会 計	11,283,000 11,286,977	11,286,977	11,275,320	11,657
国 民 健 康 保 険 特 別 会 計 (事 業 勘 定)	1,865,307,000 1,937,227,295	1,861,917,100	1,813,274,732	48,642,368
国 民 健 康 保 険 特 別 会 計 (直 営 診 療 施 設 勘 定)	665,211,000 657,367,298	657,367,298	646,313,890	11,053,408
老 人 保 健 特 別 会 計	5,982,000 6,309,821	6,309,821	5,551,418	758,403
後 期 高 齢 者 医 療 保 険 特 別 会 計	153,197,000 153,515,642	153,327,692	151,987,351	1,340,341
港 湾 整 備 事 業 特 別 会 計	28,139,000 28,489,550	28,489,550	252,000	28,237,550
公 共 下 水 道 事 業 特 別 会 計	663,577,000 662,412,859	662,379,379	662,354,739	24,640
小 規 模 下 水 道 事 業 特 別 会 計	335,615,000 335,162,646	335,162,646	335,159,846	2,800
特 定 地 域 生 活 排 水 処 理 事 業 特 別 会 計	28,173,000 27,922,902	27,916,302	27,916,302	0
介 護 保 険 特 別 会 計	1,097,543,000 1,108,263,546	1,103,826,146	1,078,474,630	25,351,516
介 護 サ ー ビ ス 特 別 会 計	15,787,000 15,755,279	15,755,279	13,733,486	2,021,793
風 力 発 電 事 業 特 別 会 計	46,827,000 47,023,277	47,023,277	46,579,657	443,620

【 第 20 回 臨 時 会 報 告 】

第20回臨時会は10月18日に開催され、上程された議案は、何れも原案のとおり可決されました。

- 伊方町地域密着型介護保険施設整備基金条例制定について
 - ・地域密着型介護保険施設整備事業に対する補助金の財源に充てるため、基金を設置する。
- 平成22年度伊方町一般会計補正予算(第4号)
 - ・補正額 150,000千円 補正後の額 9,612,469千円
 - (主な内容)
 - 地域密着型介護保険施設整備基金 150,000千円
- 防災行政無線(移動系)整備事業請負契約の締結について
 - 契約金額 205,558,500円
 - 契約の相手方 香川県高松市勅使町181番地5
パナソニックシステムソリューションズ
ジャパン株式会社 四国社
社長 富増 勝嗣

一般質問

通告概要

廣瀬秀晴議員

- 若者世代の住宅対策について
- 子育て環境の充実について
- ゲリラ豪雨等に対する水害対策について

篠川長治議員

- 小中学校施設の耐震安全性等について
- 伊方町建設工事等の入札実績について

梶田和美議員

- がん対策について
- 緊急医療情報キットの取り組みについて



廣瀬秀晴議員

若者世代の住宅対策について

問 少子高齢化社会の進展や長引く経済不況の影響により、町民の方々の暮らしは非常に厳しく、雇用情勢も悪くなつて

答 このような経済情勢の中で安定した収入は望み難い。特に若者においては、町外の新しい賃貸住宅を求めて転出するのでは危惧している。そこで、次の2点についてお伺いする。
(一) 町内の若者世代の方々に対する住宅政策について、町はどのようなお考えか。
(二) 持ち家住宅の取得に際して、どのような支援策を講じているか。

答 (一) 伊方町における住宅政策の基本指針として昨年度、住生活基本計画、いわゆる住宅マスタープランを策定し、

基本目標として、伊方の海や山と共存し快適で安心して暮らすことが出来る住宅作りの実現を目指している。

具体的には伊方保育所跡地に建設を予定している。この新たな町営住宅については、子育て世帯向けの間取りの検討や収入に応じた負担可能な家賃設定など若者の定住促進のための受け皿の整備を検討中である。また、教員住宅の内、利用の少ない住宅については、入居基準のない公共賃貸住宅へ順次所管替えを行っている。

(二) 持ち家の取得に対する施策としては、個人住宅の建築に際し県内南予地域で生産された木材を活用した木造建築に対し、最高50万円を限度に補助金を支給する制度を今年度から導入した。(町長)

子育て環境の充実に ついて

問 伊方町の人口動態を見ると、平成21年度は出生が61人に対し死亡が221人で160人の減少。また、転入2855人に対し、転出が3322人で477人の減少。全体で207人の減少となっている。

国の「子ども手当」や「高等学校の無償化」などの重要

施策が不透明な中ではあるが、町としてはどのような子育て支援策を進めるか、町長の考えをお伺いする。

答 伊方町次世代育成支援後期行動計画を今年3月に策定し、この計画の基本理念として、前期計画を引き継ぎ、子育てをみんなで支えることで子供を産み、育てたいと考えることが出来るよう、また子どもが町に誇りを持ち住み続けることが出来るような、町作りを進めるために6つの基本目標を掲げている。中でも次の2点について重点的に推し進める考えでいる。1つ目は地域全体での子育て支援の推進。具体的には乳幼児医療費の負担軽減、インフルエンザ予防接種費用助成、出産祝金の支給。特に保育料については伊方町独自の軽減措置を講じている。2つ目は、仕事と家庭、地域生活の両立支援。具体的には居残り保育の実施や放課後児童クラブの拡充等がある。また、三崎地域に計画中の高齢者介護施設がオープンすると約40人の雇用の場が創出される。今後共伊方町らしい施策の実現に取り組んで参りたい。(町長)

ゲリラ豪雨等に対する水害対策について



問 近年の地球温暖化の影響からか、日本各地でゲリラ豪雨が発生し、大きな被害が出ている。そこで、この大雨に対する水害対策についてお伺いする。
今年度は伊方町総合計画の後期基本計画の取り纏めを行うなど、今後の事業計画を具体化するための重要な時期でもある。

答 湊浦地区における水害対策の問題については、水門及び排水ポンプの整備については農協前に付け替えられた橋

から上流の河川改修整備後の状況を見て排水ポンプの必要性を検討することとしている。この問題については設置に伴う費用対効果の問題や排水ポンプ設置後の維持管理費についても十分な検討を重ねた上で方針を示したいと考えている。

現段階で、可能な対策として地区内における排水施設の流水方向及び流水断面等について改善を図ることを目的に河川や水路の改修事業に取り組み、浸水箇所の解消に努めて参りたいと考えている。そのため調査予算を今9月補正に計上している。(町長)

篠川長治議員



小中学校施設の耐震安全性等について

問 伊方町では、耐震補強工事を必要とする学校のうち三

机小中学校の耐震補強、三崎小学校の改築、そして現在、伊方小中学校の耐震補強工事を施工している。

文部科学省では、公立学校施設の耐震改修の補助要件として、地震時の児童生徒の安全性、被災直後の地域住民の避難場所としての機能を考慮し、補強後のIs値（構造耐震指標）が概ね0.7を越えることとしている。

耐震補強後は小中学校施設は、どの位の震度に耐えられるのか、一般町民に解りやすいよう、震度を数値でお伺いする。

答 伊方町では将来発生が予想される大規模な地震に備えるため、耐震性が低いとされる昭和56年以前に建築された学校施設について、順次耐震診断を実施してきた。

どのくらいの震度に耐えられるかと言うことであるが、Is値と震度をイコールに結ぶことは出来ないが、Is値0.7以上は震度6強から7.と考えるのが一つの目安であるところ、理解をいただきたい。

(教育長)

伊方町建設工事等の入札実績について

問 伊方町は、広報いかた6月



号で、平成17年度から21年度の競争入札の実績を報告しておりますが、建設工事の落札率グランプは19年度を底にV字型の上昇となっている。

そこで次についてお伺いする。(1)として土木工事63件以上となっているが、なぜか、広報6月号では、更なる低価格入札の弊害排除に取り組みむなど、鋭意制度の改善に取り組んでいるとある。そこでまず、①低価格入札の弊害の詳細について説明を求め、②として鋭意改善を要する制度の内容について説明を求め、(2)として、設計委託業務は25件中10件、約40%が落札率90%以上となっている。費用対効果等の観点から制限付一般競争入札の導入が必要ではないか。(3)として、伊方中学校舎耐震補強工事、監理委託業務費用の内容詳細について説明を求め、

(4)として、「伊方町斎場周辺整備工事」入札1,336万円失格、1,380万円落札。調査基準価格13,452,875円である。

(5)として、「町道ガードレール維持補修工事」952万円失格、1,090万円落札。調査基準価格10,904,198円となっている。

(6)として、「町道湊浦河内線道路改良(防災)工事」入札1,770万円落札。調査基準価格は18,309,917円となっている。

前記の(4)から(6)は、入札の失格、落札それぞれの経緯について説明を求め、

答 (1)更なる低価格の入札の弊害排除への取り組みについて、低価格入札については公共工事の減少による価格競争の激化が進む中、著しい低価格による入札が増加するとともに、工事の品質確保への支障、下請けのしわ寄せ、安全対策の不徹底などの弊害が全国的に懸念されている。これらの弊害を排除するため、町においては低入札価格調査の基準となる調査基準価格の算定方法や失格判断基準を見直してきた。

(2)の設計業務委託における、制限付一般競争入札の導入については、以前にも議員からご提言いただいているが、まだ県内でも制限付一般競争入札を施行している事例が少なく、今後の動向を見ながら検討を進めていきたいと考えている。

(3)の伊方町立伊方中学校校舎耐震補強工事監理委託業務費用の詳細内容についてであるが、公正な競争を阻害するところがあるので、お答えすることが出来ない。

(4)～(6)の入札の失格及び落札の経緯は、いずれも低入札価格調査を実施する基準となる調査基準価格を下回る入札があったことから失格となったもの。

(副町長)

梶田和美議員



がん対策について

問 厚生労働省が2011年度

政府予算で子宮頸がんを予防するワクチン接種の助成事業を新たに設け、約150億円を盛り込む方針。12才の女子への一斉接種に必要な費用は210億円であるが、厚労省が考えているのは150億円である。予算編成に絡んだ動きを見る必要があるが、国、県、町で負担しあつてとなると、町も避けて通れない。子宮頸がんゼロに向けた町長の決意のほどをお伺いする。

問 国ではこの予防接種に対する助成を来年度から行う方針としており、ガン対策への期待が持たれていることはご案内の通り。県内でも子宮頸がんワクチンの助成制度に取り組む町もあるようだが、予防接種でガンに係る可能性がゼロになるわけではない。ワクチンの効果がどれぐらい持続するのか、また副作用に対する調査も継続的に行われており、これらが不安要因でもあるので、伊方町においては、来年度からの国の実施状況を見極めて対応していきたい。

(町長)

に瀬戸内海側の集落は高齢化率が高く、高齢者の周りは、ほとんどの方が高齢者といった集落がある。独居高齢者の多い伊方町、是非高齢者等の緊急連絡先や持病、服薬内容等の入った、命のカプセル(救急隊への情報提供)の取り組みをと考えるかがかか。

答 実施に当たっては、行政関係者の他、各地区民生委員や医療関係の主治医、介護サービス提供者、そして消防署など高齢者の生活を支える様々な関係機関の情報の提供や時間の経過と伴に変化する情報の更新など、正確な情報を確保するための協力が不可欠となる。従って、議員ご提案の救急キットに対する取り組みについては、関係機関の方々の協力を十分に行い、意見を集約して実施についての判断をしたい。

(町長)

救急医療情報キットの取り組みについて

問 伊方町は集落が点在し、特



議 会 目 誌

- | | | | |
|--------|--|---------|-------------------------------|
| 8月15日 | 愛媛県戦没者追悼式 (松山) | 26日 | 第5回伊方町社会福祉大会 |
| 16日 | 国道197号(大洲・八幡浜・西宇和間) 地域高規格道路建設促進期成同盟会民主党県連要望 (松山) | 28日 | 議会運営委員会 |
| 18~20日 | 北海道泊村視察研修 (北海道) | 10月1日 | 第6回伊方町老人クラブ連合会スポーツ大会 |
| 22日 | 愛媛スポレク祭2010伊方町大会 | 6~7日 | 第20回町村監査委員全国研修会 (東京) |
| 23日 | 伊方町名誉町民証授与式 | 6日 | 伊方町戦没者追悼式 |
| 25日 | 八幡浜・大洲地区広域市町村圏組合議会定例会 (大洲) | 13日 | 例月現金出納検査 |
| 28日 | 伊方町バレーボール教室交流会 | 14~15日 | 第51回四国地区町村議会議長会 (高知) |
| 9月2~4日 | 伊方町環境監視委員会委員視察研修 (青森) | 18日 | 第20回臨時会 |
| 2日 | 南予水道企業団議会定例会 (宇和島) | 25日~26日 | 第7回全国原子力発電所立地議会サミット実行委員会 (東京) |
| 8日 | 議会運営委員会
例月現金出納検査 | 11月1~2日 | 平成22年度第2回町議会議員研修会 (松山) |
| 10日 | 伊方原子力発電所環境安全管理委員会 (松山) | 2日 | 愛媛県後期高齢者医療広域連合議会第3回定例会 (松山) |
| 16日 | 伊方町環境監視委員会 | 5日 | 三崎高等学校創立60周年記念式 |
| 17日 | 議員全員協議会 | 15~17日 | 第7回全国原子力発電所立地議会サミット (東京) |
| 22~28日 | 第22回定例会 | | |
| 24日 | 議員全員協議会 (決算審査) | | |

議員研修レポート

8月18日（水）～20日（金）の3日間議員16名の参加を得て、姉妹町村である北海道泊村を中心に視察研修を実施いたしました。3名の議員の研修レポートを掲載いたします。

廣瀬秀晴議員



「議員研修に参加して」

8月18日～20日の伊方町議会議員研修で姉妹町村である北海道泊村を訪問いたしました。

泊村は「ニシン漁が莫大な富をもたらした村」として有名です。ニシン漁が始められたのは今から約300年前と言われ、明治を全盛期として昭和30年頃まで繁栄した歴史があり、資料館「鯨御殿」で当時の栄華を知ることができました。今は北海道の電力の

4割を発電する原子力発電所が立地する、人口1、964人世帯数973の小さな村です。伊方町を朝7時に出発して夕方5時頃着の長旅でした。到着後、村長様はじめ村の皆さん、そして10名の村議会議員全員との交流親睦会に臨み、お互いの経済や議会のことなど姉妹町村ならではの雰囲気の中で交流を深めました。

2日目はメインの「まちづくり意見交換会」があり、私に関心を持ったのは泊村が現在構築中の「泊村地域情報化事業」でした。これは光ファイバー網による「下水道施設管理の効率化」「各戸水道自動検針」「多目的利用による住民福祉の向上」を主目的に整備中でした。その中でも「安心システム」は高齢化世帯と総合福祉センターを結び、特殊なセンサーで常に在宅の生活状況をモニターするものでした。伊方町も高齢化の進んだ町です。今度大いにこのようなシステムの研究をすべきではないか。このように感じました。なかなかの、強行軍でしたが事故もなく有意義な研修になったのではないかと思います。



清家慎太郎議員



「泊村視察研修を終えて」

空港到着後、想像してなかった暑い北海道に戸惑いながら3時間ほどバスに揺られて到着した泊村は、道路の左は海、右は僅かな平地に家があるも

の奥はすぐ山林という地理状況でした。

到着後間もなく行われた意見交換会等を通じて泊村は2千人弱の人口と豊かな財政状況を背景に、様々な手厚いふりさと定住促進事業を展開していることを知りました。共通課題である過疎化対策、とりわけ産業振興としては栽培漁業センターで年間2百万粒のウニの種苗を生産しているという事で「獲る漁業」から「育て獲る漁業」への転換に取り組みされていきました。確かに視察中にもウニ漁をしている姿を何度か見ることができましたが、この事業が実を結び多くの後継者がウニ漁をしている風景を見る事が出来る事を願いました。泊村は村にあるもの日本海を活用した取組をされています。

また上勝町の葉っぱビジネスの様に、産業振興はその町に「あるもの勝負」という事がカギであると考えます。振り返って伊方町に「あるもの」は海と山であり、廃園の増加も少子高齢化も、見方を変えて考えれば、耕作できる畑は多数ある、力を貸してくれる高齢者の方々は多い、とも考える事が出来ます。泊村は昭和35年には1万人近い人口でした。同年の伊方町において

は、旧三崎町だけでも1万人を越える人口でした。子どもが30人以上いた同級生は今の子ども世代には一桁台しかいなくなりました。住みたい町であるが仕事が無い、という事が過疎化の大きな要因です。産業振興という扉を開くカギを見出すことは非常に困難な事ですが、姉妹町村としてお互い創意と工夫を重ねながら是非とも、地域活性化の大きな目標子どもたちが帰ってこれる町作り」に取組みたい、改めてその事を考えさせられた視察研修でした。



菊池隼人議員



「泊村視察研修レポート」

8月18日から20日までの3日間、平成10年から姉妹都市提携を結んでいる泊村へ、視察研修に行ってきた。北海道の西部、積丹半島の南西に位置している泊村は8月1日現在、人口1,964人、973世帯で5つの集落で形成されている。高齢者率(65歳以上)は、34・3%であった。財政状況においては、平成22年度的一般会計当初予算は48億4800万円であった。伊方町(人口1万1,642人、世帯数5083戸)の同年一般会計当初予算83億8,100万円と比べて住民1人当たりの予算がいかに大きいか一目瞭然である。泊村は本当に税収の潤沢な村なのである。産業としては、漁業が中心であり農業はゼロであった。

移動中のバスからも小船に乗り長い棒のようなものを持って、海中を覗き込んでウニ漁をしている風景が見えた。

現在では、村を挙げて増養殖漁業の育成に取り組んでおり、泊村栽培漁業センター(平成3年、約6億円で建設)では、エゾバフンウニの資源、漁獲の増大を図っている。ここでは、毎年約2百万粒の種苗を生産し、5ミリの大きさに飼育した後、近くに設置された中間育成施設で15ミリほどに育成して、海中に放流されている。ウニの餌となる昆布も、センターで生産され供給している。

伊方町が三崎種苗生産施設において、アワビの種苗生産・中間育成し放流しているのと重なるが、本町の捕獲量や価格が低迷している水産業の将来を考えた場合、育てる漁業の多品種化としての、一つの参考となるのではないかと思う。

最後にこの度の泊村視察研修において、牧野村長、北村議長をはじめ、全議員の皆様にお迎えして頂き、温かいおもてなしをして頂いたことに深く感謝し、研修レポートとする。

委員会(協議会)報告

月 日	委員会(協議会)	概 要
9月8日	議会運営委員会	第22回定例会の運営について
9月17日	議員全員協議会	平成21年度伊方町の財政の健全化判断比率及び資金不足比率の報告について 財務会計システム更新及び総合行政システムバージョンアップについて 伊方町総合計画(後期基本計画)ほか各種計画の策定作業について 地域密着型介護保険施設整備事業について 伊方町保育所統廃合について 学校再編検討委員会の経過報告について 八幡浜南環境センターの継続使用について 伊方港及び田之浦漁港建物補償について 伊方中学校入学経費の助成について 平成21年度伊方町の教育に関する事務の点検・評価報告書について 伊方スポーツセンター指定管理者の募集について 平成21年度愛媛県地方税滞納整理機構の徴収実績について 伊方町固定資産評価システム構築業務委託事業について 四国電力伊方発電所の運転状況について ①伊方3号機プルサーマルの状況について ②伊方2号機湿分分離加熱器の取替えについて ③伊方発電所の耐震安全性向上に関する取り組み状況について その他
9月24日	議員全員協議会	平成21年度一般会計等決算審査
9月28日	議会運営委員会	第20回臨時会について